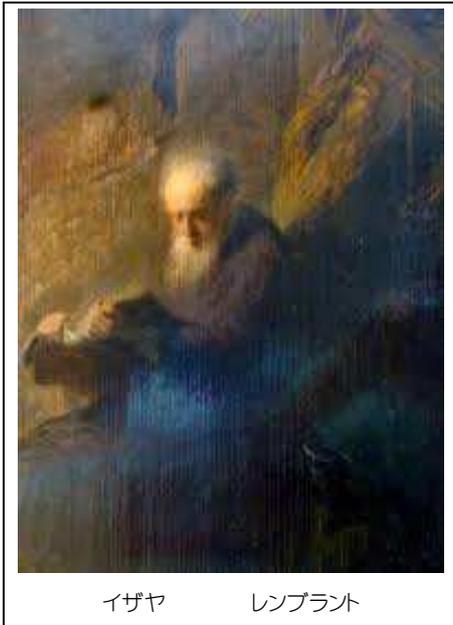


イザヤ書 56 章～66 章は第二イザヤの弟子の第三イザヤによって記されたとされています。書かれた時期は、帰還後 20 年を経て、新しい神殿を建て終えた (518/517BC) 後とされます。ソロモンが「主の御名のために」建てた神殿は焼き捨てられ、廃墟となっていました。至聖所に安置されていた「契約の箱」は失われていました。帰還者は民族の象徴である神殿の再建にまず取り掛かりました。けれども、そこはペルシャのユダヤ属州であり、異邦人が住んでいます。貧しい帰還者が、異邦人の敵視、蔑視の中で、日々の生活を遣り繰りするだけでなく、神殿再建を果たしたものの、「ご神体」かのように置かれていた「契約の箱」はなく、至聖所を象徴する垂れ幕が下げられました。



イザヤ レンブラント

第二イザヤが「今、あなたは知らなかった国に呼びかける」と預言したように、イスラエルは捕囚になって異国で生活し、帰還後も異民族と共に生きなければならない時代を迎えました。

また、主のもとに集って来た異邦人が／主に仕え、主の名を愛し、その僕となり／安息日を守り、それを汚すことなく／わたしの契約を固く守るなら わたしは彼らを聖なるわたしの山に導き／わたしの祈りの家の喜びの祝いに／連なることを許す。彼らが焼き尽くす献げ物といけにえをささげるなら／わたしの祭壇で、わたしはそれを受け入れる。わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる。(56:6)とあり、燔祭を捧げるという神殿の機能も信仰者にも変化が見受けられます。神殿は祭司の専有のものから、第三イザヤの時代には異邦人にも門戸が開かれ、信仰告白の場となってきたという印象があります。捕囚の時代にまとめられたモーセ五書などが読まれたりしたことでしょう。

第三イザヤは信仰的にも、経済的にも異邦人と共存する道を説いています。これまで偶像礼拝をしてきた罪の虚しさを説き、最も大切なこととして高く、あがめられて、永遠にいまし／その名を聖と唱えられる方がこう言われる。わたしは、高く、聖なる所に住み／打ち砕かれて、へりくだる霊の人と共にあり／へりくだる霊の人に命を得させ／打ち砕かれた心の人に命を得させる。(57:15) と謙遜に生きる者に神が祝福を与えと言います。従来のように、律法に従い、頭を垂れ、粗布をまとい、断食をするという形をもって表す姿が謙遜ではなく、悪による束縛を断ち、軛の結び目をほどいて／虐げられた人を解放し、軛をことごとく折ること。更に、飢えた人にあなたのパンを裂き与え／さまよう貧しい人を家に招き入れ／裸の人に会えば衣を着せかけ／同胞に助けを惜しまないこと(58:6)と、人を助け、愛することが謙遜だと教えます。

けれどもかつてのモーセのように執り成す人がいないことを嘆きます。イザヤは、主は贖う者として、シオンに来られる(59:20)、主があなたのとしえの光りとなり あなたの神があなたの輝きとなられる(60:19b)、立ち帰ってください。あなたの僕たちのために あなたの嗣業である部族のために(63:17b)と、天を裂いて降って下さい(63:19b)と、信仰者が生きる力を与えられ、新たに生きられるように永遠の「贖い主」が来て下さるように、と待望します。第二イザヤの「贖い主」との言葉を踏襲していますが、それは終末の裁きの日に来られる主ではなく、喜び躍り、家を建てて住み、平和に長生きする現世に来られる主です。見よ、私は新しい天と新しい地を創造する(65:17)と、世が全く新たに始まると預言します。そのような世は、敵も異邦人も共に生きられる 狼と小羊がともに草をはみ、獅子は牛のようにわらを食べ(65:25)る平和な世界です。

彼らの中から生き残った者を諸国に遣わす…更にわたしの名声を聞いたことも、わたしの栄光を見たこともない、遠い島々に遣わす。彼らはわたしの栄光を国々に伝える…わたしは彼らのうちからも祭司とレビ人を立てる、と主は言われる。わたしの造る新しい天と新しい地が／わたしの前に永く続くように／あなたたちの子孫とあなたたちの名も永く続く／主は言われる。(66:18)と第三イザヤは民族主義を超え、新しい世界観を告げています。